犬種

カレリアン・ベア・ドッグ



カレリアン・ベア・ドッグ · Nuzzleway

大型の獲物に立ち向かうために作られた、頑丈な中型のフィンランド産猟犬スピッツです。活発で自立心が強く、ほかの犬を受け入れない個体もいます。安全なリードやフェンスを使い、少しずつ社会化し、毎日の散歩に追跡やにおいの作業を取り入れましょう。週1回、換毛期はさらにブラッシングしてください。フィンランドのブリーダーは股関節と目を検査します。跛行、目の変化、発作があれば獣医師に相談しましょう。

15 · 11 · 2026

成猫の体重（kg）

17–28

一般的な寿命（年）

11–13

被毛

まっすぐで硬い、白い斑のある黒のダブルコート

原産地

フィンランド

品種情報は準備に役立ちますが、診断や治療指示ではありません。個別の計画は獣医師と相談してください。

散歩・食事・投薬の予定を立てる

この犬種のケア情報を参考に、年齢、現在の体重、体の状態、体格、体力、健康、動きやすさ、性格、天候、家庭の生活に合わせて調整します。性別だけでは決まりません。避妊・去勢、発情、妊娠、授乳も考慮し、変更は獣医師に相談します。

排泄、匂いを嗅ぐ時間、適度な運動、休息を組み合わせます。子犬は成長とワクチンの助言に合わせた短く穏やかな外出、高齢犬や動きにくい犬は短く無理のない散歩が必要な場合があります。暑さや犬の反応に合わせて道と速さを変えます。犬種ごとの固定時間ではなく、実際の時間と様子を記録します。

犬種の一般的な参考値で、個々の犬の目標ではありません。運動は適した散歩や遊びを含み、連続した走行ではありません。下記はその活動に慣れた健康な成犬向けの編集上の例です。体力、天候、獣医師の助言で調整し、時間達成を強制しません。

家庭に合わせて時刻を動かします。食事前は静かに回復させ、食事と運動の間隔は獣医師に確認します。必要な排泄の外出も追加します。投薬はこの表ではなく処方に従います。

時刻と所要時間のある一日の例

時刻	ケア	所要時間／量

時刻	ケア	所要時間／量
07:00	散歩／適した活動	20 min
08:00	食事	決めた一日の食事用量の½
13:00	散歩／適した活動	15 min
18:00	散歩／適した活動	25 min
20:00	食事	決めた一日の食事用量の½
22:00	就寝前の排泄	必要に応じて

犬の食事を予定する

ライフステージに合う総合栄養食を選び、食事の時刻、計量した量、おやつ、アレルギー、処方された食事を記録します。子犬や妊娠・授乳中の犬には個別の計画が必要です。避妊・去勢後や体重・活動量の変化時は獣医師と量を見直します。このページの体重範囲からカロリーや食事量は計算できません。新鮮な水を用意します。

多くの健康な成犬では、08:00と20:00の12時間間隔の2食が出発点になります。一日分を量り、ご褒美用を取り分けてから食事分を分けます。この犬種全員に合う一律のグラム数はありません。

離乳後の子犬の一般的な食事目安：4か月未満は4食（07:00、11:00、15:00、19:00）、4〜6か月は3食（07:00、13:00、19:00）、6か月以降は2食への移行を相談します。時刻は例で、絶食の決まりではありません。とても小さな子犬、病気、処方食の場合は個別に確認します。

犬の投薬を予定する

この犬に処方された薬だけを予定に入れます。薬名、処方量、投与方法、間隔、開始・終了日、食事に関する指示、実際に投与した人と時刻を記録します。獣医師の指示による予防薬も含めます。飲み忘れや異常があれば動物病院に相談し、自己判断で倍量にしたり治療を変えたりしません。Nuzzlewayはリマインダーを整理し、処方は行いません。

その間隔が処方された場合のみ：24時間ごと→08:00、12時間ごと→08:00と20:00、8時間ごと→06:00、14:00、22:00。間隔の例であり、治療の選択肢ではありません。開始時刻、食事条件、遅延・飲み忘れ・吐き出し時の対応を動物病院に確認してから通知を設定します。

ケアの予定を共有する

散歩、食事、処方薬の担当を決め、家族やペットシッターに時刻と注意事項を共有します。実施した内容に時刻と担当者を記録し、次の人が重複する前に確認できるようにします。Nuzzlewayに決めた日課と観察をまとめ、必要に応じて見直します。

引き継ぎ例：「18:40 — アレックスが25分散歩、楽に休めました。夕食は未実施。投薬前に記録を確認」。通知だけでなく実施時刻と完了を残します。

睡眠と休息の予定

PDSAは個体差を前提に24時間で14〜16時間以上の睡眠を目安としています。昼寝と夜の睡眠を合計します。静かな休息が必ず睡眠とは限りません。

この時間帯は14時間45分の静かな環境を用意する例で、睡眠を保証せず閉じ込める予定でもありません。他の時間にも眠れるようにし、必要な排泄に対応します。快適で利用しやすい寝床、静かな場所、昼の自然光と夜の薄暗さ、水を用意します。

離乳後の子犬についてAKCは1日約18〜20時間の睡眠と、よくある30〜120分の昼寝を説明しています。短い活動後は静かに休ませ、起床時は排泄の機会を設けます。夜間の排泄も必要な場合があります。成犬の予定を適用したり合わせるために起こしておいたりしません。

高齢・虚弱な犬は一律の睡眠時間でなく快適な休息を守ります。使いやすい寝床と排泄補助を用意します。新しい夜間の歩き回り、混乱、あえぎ、繰り返す覚醒は痛みや健康、睡眠覚醒周期の評価が必要です。自己判断で睡眠薬を与えません。

落ち着いた時刻、推定睡眠、覚醒、排泄の必要、補助した人を共有します。普段のパターンと比べ、寝床にいる時間を睡眠とみなしません。

持続的・急な睡眠変化、落ち着けない状態、日中の無気力は相談します。起こしにくい、倒れる、呼吸困難は緊急受診が必要です。

新生児：生後2週間

散歩や成犬の食事時間は使いません。母犬といる場合は各子犬が十分に吸乳できるか確認し、うまくいっている授乳を哺乳瓶の予定に置き換えません。

母犬がいない、または吸乳できない場合は速やかに獣医師に相談し、犬用代用乳と与え方の実演を受けます。生後1週の孤児は夜間も含め通常2〜4時間ごとの給餌が必要です。3時間ごとと決めた場合のみ、00:00、03:00、06:00、09:00、12:00、15:00、18:00、21:00が例です。量は体重と製品により異なります。

巣を暖かく乾燥した状態にし、隙間風を避け、熱源から離れられる場所を設けます。日齢に合う温度を確認し、直接の熱や火傷を避けます。冷たい、弱い子犬は給餌前に緊急の助言が必要です。無理に飲ませたり、指導なしに注射器やチューブを使ったりしません。

この2週間は各子犬を毎日グラム単位で量ります。同じ時刻、給餌との同じタイミング、例えば08:00に記録します。群れの平均でなく個別に記録し、減量や増えない場合は速やかに相談します。

通常は母犬が排泄を助けます。孤児では給餌後に温かい湿った綿で優しく刺激する方法を教わり、尿と便を記録します。

夜の担当を分け、給餌した人、時刻、指示された代用乳の摂取量、体重、変化を残します。交代前に次の確認を決めます。

吸乳しない、冷たい、著しい衰弱、泣き続ける、下痢、呼吸困難は緊急の獣医師への相談が必要です。次の給餌まで待ちません。

子犬

成犬の運動時間を使いません。起床、食事、遊びに合わせて穏やかな外出と休息を設けます。成長と安全な接触を相談します。「月齢ごとに5分」という固定ルールに科学的根拠はありません。

高齢犬・動きにくい犬

無理なくできる活動を楽な外出に分けます。こわばり、足を引きずる、回復が遅い場合は記録し、獣医師に時間を決めてもらいます。年齢だけで食事変更や運動中止が必要になるわけではありません。

性別と繁殖の状態

発情期は静かな道を選び、望まない交配を防ぎます。避妊・去勢後は散歩時間を自動で変えるより体重と量を確認します。妊娠・授乳は個別計画が必要です。性別だけで違う時刻が必要になるわけではありません。

とても高齢・虚弱な犬：快適さを優先

虚弱になる年齢は一律ではありません。立ち上がりにくさ、消耗、食欲や睡眠の変化を、成犬の運動時間より重視します。

起床、食事前後、就寝前に排泄の機会を用意します。確認時刻の例は07:00、12:00、18:00、22:00で、必要なら追加します。歩ける時間は獣医師と決め、短い外出も難しい場合は無理をせず補助を相談します。

08:00と20:00などに、快適さ、実際に食べた量、飲水の変化、排泄、立ち上がり、睡眠、好きな活動への興味を記録します。確認やケアをこの時刻に限定しません。

滑りにくい道、利用しやすい快適な寝床、届きやすい水と食事を用意します。慣れた道を使い、立つ補助が必要なら合う補助ハーネスを相談します。

出した量と食べた量を記録し、体重や筋肉の減少を伝えます。年齢だけで食事やたんぱく質を減らさず、強制給餌や処方食の自己変更を避けます。薬とサプリを確認し、実際の投与を記録します。

痛みの管理、夜間のケア、再評価を相談します。楽な休息や楽しめる活動が失われる場合は、生活の質と緩和ケアを相談します。

倒れる、呼吸困難、急に立てない、強い痛み、尿が出ない場合はすぐ受診します。新たな混乱、食欲低下、転倒の繰り返しも「年齢のせい」で済ませず早めに評価してもらいます。

共有ケア記録用紙

予定時刻	ケア / 合意した量	実際の時刻 / 担当者	メモ / 次の対応
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____

出典・参考情報

- FCI · breed standard
- American Kennel Club
- Suomen Pystykorvajärjestö: terveys
- Suomen Pystykorvajärjestö: epilepsia
- PDSA
- AKC
- AAHA
- VCA
- UK Pet Food
- PDSA
- FDA
- Merck Veterinary Manual
- AAHA
- AAHA

Nuzzleway · このガイドから毎日のケアへ

カレリアン・ベア・ドッグのケアを毎日の習慣に

大型の獲物に立ち向かうために作られた、頑丈な中型のフィンランド産猟犬スピッツです。活発で自立心が強く、ほかの犬を受け入れない個体もいます。安全なリードやフェンスを使い、少しずつ社会化し、毎日の散歩に追跡やにおいの作業を取り入れましょう。週1回、換毛期はさらにブラッシングしてください。フィンランドのブリーダーは股関節と目を検査します。跛行、目の変化、発作があれば獣医師に相談しましょう。

散歩、食事、休息をNuzzlewayにまとめ、愛犬の様子を記録しましょう。

Nuzzlewayの利用にはアカウントと有料サブスクリプションが必要です。

スキャンしてこの品種のアプリリンクを開く

App Storeで Nuzzlewayを見る